
プロジェクト	国際対応
項目	アジェンダ協議

I. 本資料の目的

1. 本資料は、IASB から 2015 年 8 月 11 日に公表された意見募集「2015 年 アジェンダ協議」（コメント期限：2015 年 12 月 31 日）（以下「本協議文書」という。）について、概要及びこれに対する当委員会の対応（案）についてご説明することを目的として作成している。なお、本資料の補足資料として、本協議文書を仮訳したものを審議事項(1)参考資料として配布している。

II. アジェンダ協議文書の概要

2. 本協議文書は、財務報告に関心を有する者から、次の点について見解を聴取するために公表されたものである。
 - (1) IASB の戦略的な方向性と作業計画のバランス
 - (2) アジェンダ協議を行う間隔として、3 年間が適切か
3. IFRS財団のデュー・プロセスハンドブックにおいて、IASBは、3 年毎に作業計画について公開協議を行うこととされている¹。IASBは、2011 年に第 1 回目のアジェンダ協議を行っており、今回のアジェンダ協議は 2 回目のものである。本協議文書では、2016 年月中旬から 2020 年月中旬までのIASBの作業計画²等について関係者の見解を求めている。
4. 本協議文書では、次に関する記載がされている。
 - (1) IASB の基準設定に関するアプローチ
 - リサーチプロジェクト
 - 基準レベルのプロジェクト
 - 維持管理及び適用に関するプロジェクト
 - 基準適用後のレビュー
 - (2) IASB の作業計画

¹ IFRS 財団のデュー・プロセスハンドブック 4.3 項から 4.5 項を参照。

² 本アジェンダ協議文書では、IASB の作業計画以外（教育活動や IFRS タクソノミーに関する活動）については見解を求められておらず、これらは IFRS 財団から公表されている意見募集文書「体制とその有効性に関する評議員会のレビュー：レビューにあたっての論点」で見解を求められている。

- IASB の作業計画について、2011 年に行われたアジェンダ協議が 2012 年から 2015 年の作業計画にどのように反映されたかに関する説明
 - 2015 年 7 月末から 2020 年半ばまでの期間を対象として、現時点で予定されているプロジェクトに関する進捗や完了の見通し（以下 5 つのカテゴリーに区分）
 - ・ リサーチプロジェクト
 - ・ 基準レベルのプロジェクト
 - ・ 概念フレームワーク
 - ・ 開示に関する取組み
 - ・ 維持管理及び適用に関するプロジェクト
- (3) IASB の作業計画に関する質問
- (4) アジェンダ協議の頻度
- (5) 別紙：リサーチプログラムの概要、IFRS 財団から公表されている意見募集文書に記載されている質問項目

III. IASB の作業計画とそれに対する質問

IASB の作業計画

5. 本協議文書では、「IASB の作業計画」について、次の説明がされている。
- (1) 2015 年から 2020 年において、各カテゴリーに必要なリソースは次のように変化することが見込まれている。

表 1：2015 年から 2020 年において、各カテゴリーに必要なリソースの見込み

区 分	2015 から 2020 年に必要なリソース
リサーチプロジェクト	増加が見込まれる（リサーチプログラムを増加させるため）。
基準レベルのプロジェクト	大きな変化は見込まれていない。
概念フレームワーク	概念フレームワークの完了が見込まれる 2017 年からは大幅に減少することが見込まれる。
開示に関する取組み	幾つかのプロジェクトが完了するにつれて、一定程度減少していく可能性がある。

維持管理及び適用に関するプロジェクト	大きな変化は見込まれていない。
--------------------	-----------------

- (2) 2015年7月末において、現在進行中のリサーチプロジェクト及び基準レベル及びその他の主要なプロジェクトは、次の通りである。

表2：2015年7月末におけるリサーチプロジェクトの一覧³

プロジェクトの段階	プロジェクト
評価段階	事業の定義
	割引率
	のれん及び減損
	法人所得税
	汚染価格設定メカニズム（以前の排出量取引スキーム）
	退職後給付（年金を含む）
	基本財務諸表（以前の業績報告）
	引当金、偶発負債及び偶発資産
	株式に基づく報酬
開発段階	共通支配下の企業結合
	開示に関する取組み——開示原則
	動的リスク管理
	持分法
	資本の特徴を有する金融商品
休止中	採掘活動／無形資産／研究開発（R&D）
	外貨換算
	高インフレ

表3：2015年7月末における基準レベル及びその他の主要なプロジェクトの一覧

デュー・プロセスの段階	プロジェクト
基準を公表予定	保険契約
	リース
公開草案を公表済み	概念フレームワーク
公開草案を公表予定	開示に関する取組み——会計方針及び見積りの変更

³ IASBは、表2に記載したほかに、IFRS第5号「売却目的で保有する非流動資産及び非継続事業」についてもリサーチプロジェクトに着手すべきかについて検討を行っている。

デュー・プロセスの段階	プロジェクト
	開示に関する取組み——重要性に関する実務記述書
ディスカッション・ペーパーを公表済み	動的リスク管理
	料金規制対象活動 ⁴
ディスカッション・ペーパーを公表予定	開示に関する取組み——開示原則

(3) 作業計画における個別のプロジェクトについて優先順位付けを行い、必要なリソースを配分するうえで、IASB は、次の点を含め、様々な要因を勘案する。

- ① 財務報告書の利用者にとっての当該事項の重要度
- ② 解決すべき問題の緊急性
- ③ 他の進行中のプロジェクト又は潜在的なプロジェクトとの関係
- ④ 解決すべき問題の複雑性及び広がり、並びに解決策を開発し得る可能性
- ⑤ 利害関係者が提案に対応することが可能か（個々の提案への対応と作業計画全体への対応の双方）
- ⑥ 作業計画の全体的なバランスと、最終的に基準レベルのプログラムに進む可能性のある進行中のリサーチプロジェクトにおける全体的なバランス
- ⑦ IASB メンバーにとって十分な時間が確保できるか、及び、スタッフのリソースが十分に確保できるか

IASB の作業計画に関する質問

6. 本協議文書では、IASB の作業計画について、次の点について見解が求められている。

(1) プロジェクトのバランス: IFRS 財団のリソースを本資料 5(1)に記載した 5つのカテゴリーに割り当てる際、IASB はどのような要素を考慮すべきか。

(2) リサーチプロジェクトについて、次の点について、どう考えるか。

- ① リサーチプログラムに新たなプロジェクトを加えるべきか。加えるとすれば、どのプロジェクトか、その理由は何か。また、追加するプロジェクトを進めるために、現在進行中のどのプロジェクトについて優先順位を引き下げるべきか。
- ② リサーチプログラムから、外貨換算及び高インフレのプロジェクトを削除すべきか。賛成又は反対の理由は何か。

⁴ IASB は、料金規制対象活動に関する 2 回目のディスカッション・ペーパーを公表する予定である。

- ③ 他にリサーチプログラムから削除すべきプロジェクトはないか。
- (3) リサーチプログラムの各プロジェクトについて、相対的な重要度（高・中・低）及び緊急度（高・中・低）について、どのように考えるか。なお、特にランクを高又は低とした項目について、どのような理由によるものか。
- (4) 主要なプロジェクトに関する IASB の現在の作業計画について、コメントがあるか。
- (5) IASB と IFRS 解釈指針委員会は、利害関係者のニーズを満たすために、適切な方法で十分な導入支援の取組みを行っているか。
- (6) IASB の作業計画は、全体として、適切なペースで基準の変更がされ、原則主義の基準設定に適切な程度で詳細な基準の開発につながっているか。それは、どのような理由によるものか。
- (7) IASB の作業計画について、他に何かコメントはあるか。

IV. アジェンダ協議の頻度

7. IASBは、主要プロジェクトを進める場合、リサーチから基準設定プロジェクトまで完了させるためには、通常、3年超の期間を要する。このため、本協議文書では、関係者の一部から3年毎ではアジェンダ協議のサイクルとして短すぎ、5年ないし7年毎サイクルにすべきという見解も聞かれていることが示されたうえで、アジェンダ協議の頻度を5年毎にすることが提案されており、賛否とその理由が求められている。

V. 当委員会の対応（案）

8. 本アジェンダ協議文書については、2015年10月に開催予定の会計基準アドバイザー・フォーラム（ASAF）会議において、議題とされる予定である。このため、2015年9月中にASAF対応専門委員会及び親委員会において主な対応について予備的な議論を行うとともに、コメントレターの提出に向けて審議を行うことを予定している⁵。

ディスカッション・ポイント

本協議文書及び当委員会の対応（案）について、ご質問があればいただきたい。

以上

⁵ 上記のほか、2015年9月上旬に、IFRS財団/IASBからシニアスタッフが来日することが予定されており、本協議文書に関する予備的な意見交換の機会が予定されている。